

## 「第21回日韓国際環境賞」受賞挨拶

この度は、私の環境研究及び環境活動に対して、栄誉ある日韓国際環境賞を頂き、大変光栄に存じます。

環境問題には、国境、民族、宗教、性別、世代間など、いかなる差別も存在せず、自然と人間との良好なバランスからなる、持続可能な社会を創る姿勢のみが解決の糸口となると思います。

私の環境研究や活動の基となっているのは、日本の4大公害、特に、大気汚染によって生態系が破壊され、多くの犠牲者を出した四日市公害であります。2000年から四日市公害から学ぶ「四日市学」を構築して、その発生メカニズムを究明し、生態系への影響を把握し、有効な環境政策は何だったのかを、人文社会科学的及び自然科学的、医学的側面を網羅する総合環境学的研究を行ってきました。半世紀前に発生した四日市公害問題は、いまだに四日市ぜんそく患者が存在し、豊かな自然はいまだ戻っていない現状があります。しかし、今年3月には、四日市公害を風化させない、次世代を担う子どもたちへ四日市公害の教訓を伝えるための「四日市公害と環境未来館」がオープンしました。四日市公害の発生から半世紀の時間を経て、世界一の環境先進都市を目指す四日市市の未来に向けたプラットフォームができました。私たちの活動は、このプラットフォームを積極的に活用し、ユネスコが推進している持続可能な開発のための教育(ESD)の発展的展開のために、さらなる努力を致します。

一方、環境の世紀と言われる21世紀において、経済成長が最も著しい東アジアの日本、韓国、中国の環境問題、特に、黄砂、酸性雨、PM2.5 など越境性大気汚染が深刻な環境問題となっています。私は、1995年に東アジア大気行動ネットワークを、2002年に東アジア大気／環境行動ネットワーク(AANEAE/EANEAE)を構築し、大気環境の改善及び国際河川の水質保全、持続可能な開発のための教育(ESD)の国際的展開を積極的に行っています。東アジアの7カ国・地域(日本・韓国・中国(香港)・台湾・モンゴル・極東ロシア)の大学、研究機関、NGO/NPO 間の国境を超えた民間レベルの国際環境協力による、大気汚染測定モニタリング、情報交流、ESDの国際共同教育プログラムの開発及び運用による環境意識の向上などによって、政府の環境政策を促し、企業の社会的責任(CSR)を果たせる、地球益のために活動できる地球市民を育てています。代表的な活動として、2002年のワールドカップ日韓共催に際して「Blue Sky 運動」を展開し、日韓の約4万人の子ども、学生、市民などによる大規模な大気汚染(窒素酸化物)測定活動によって、韓国のソウル、釜山、大邱、光州など、日本の横浜、愛知県、三重県、岐阜県を含む伊勢湾岸、大阪の大都市の詳細な大気汚染濃度分布図が作成できたこと、日本の四日市コンビナート周辺及び韓国の麗水国家産業団地の小学生の喘息発症率が他の地域に比べて30%ほど高い疫学的調査は、社会的に大きな反響を呼びました。中国の北東部の吉林省及びモンゴルのウランバートル周辺の鉱山地域住民の健康被害が過去の日本の4大公害の複合型として顕在することを調査しました。また、2005年からは、中国と北朝鮮との国際河川の豆満江及び極東ロシアハバロフスクのアムール川において、水質調査モニタリングを行っています。さらに、2014年のESD ユネスコ世界会議のパートナーシップ事業として行われた、「ESD in 三重」において、世界19カ国から210名の中高大学生が三重大学に集まり、ESD ユース宣言を行い、国際ESD ユースネットワークを構築、運営できるようになりました。

今回の日韓国際環境賞の受賞を励みに、さらなる発展をすべく、気を引き締め邁進する所存であります。今後の発展的展開に期待して頂きたい。この度の栄誉ある日韓国際環境賞の受賞、誠にありがとうございました。